

中小企業の海外展開を強力にバックアップする「広域首都圏輸出製品技術支援センター (MTEP)」。  
ここでは、MTEPの専門相談員がよくある質問やサポート内容、海外展開のコツをご紹介します。

## 国際的に活躍できる企業へ脱皮するための 航空機産業参入のすすめ

いた や まさ き  
**板谷 雅樹** 専門相談員

木曜日担当(第4木曜日のみ)  
専門: 航空機関連  
宇宙衛星機器関連 米国規格



### プロフィール

日本航空(株)(JAL)在籍中は、主に航空機に関する技術、品質保証、監査業務に携わってきた。この関係で、本邦航空法、米  
国航空法、欧州航空法はもとより、海外航空機メーカーの規格および公知規格(MIL、AMS、ASTM、FED等)にも精通している。また、航空機の溶接、熱処理、接着、表面処理、めっき、耐熱コーティング、機械加工、非破壊検査等の修理技術も熟知している。  
現在、航空機産業参入のためのコンサル  
タント業務、技術文書翻訳業務を行っている。

### ▶ 発展が期待される航空機産業

私は、約35年間、航空会社に勤めて、航空機整備の技術管理、品質管理、監査、対官業務などの幅広い分野で仕事をしてきました。その経験を生かして、東京都航空機産業参入支援事業の登録専門家として、中小企業の参入のお手伝いをしてきました。そして、MTEPでも航空機関連担当として、専門相談員をしています。

日本は自動車産業が発展していて、多くの中小企業が部品などを供給しています。しかし、航空機産業に参入している企業はそれほど多くありません。世界的に見ると、アジア太平洋地域の航空輸送の需要は拡大しており、航空機産業はこれからさらに成長が見込める分野です。日本の企業は従業員の教育水準が高く、品質についての考え方もしっかりしています。そのような強みを生かしていけば、十分に活躍できると思っています。

### ▶ 越えなければならないハードル

しかし、航空機産業に参入していくには、たくさんハードルがあります。世界の主要な航空機メーカーは外国の企業です。日本国内で仕事をする分には、国家規格であるJISを

知っていればよかったです。航空機産業の仕事をするとなると、世界標準であるASTM、AMSといった規格が適用されます。これらの規格を理解して、さらにビジネスを展開していくためには、英語力も必要になってきます。

### ▶ 挑戦で企業の価値を高める

MTEPでは、私が長い間利用してきたASTM、AMSなどの規格についての相談がほとんどです。内容は、それらの規格がどのようなもので、日本で規格の詳細を手に入れるにはどうしたらいいかといったものが多く、航空機産業に参入するための具体的な相談などはまだありません。

参入するためには、厳しい条件をクリアする必要があったり、すぐには事業の黒字化が難しかったりといった厳しい産業ではありますが、将来有望であることは間違いありません。将来を見据えてチャレンジしていきたい企業の方に情報を提供し、ご相談に乗ることはできます。経済がグローバル化している流れの中で、航空機産業でも日本の中小企業の力が発揮できるようなお手伝いをしていけたらと思っています。

### ▶ 事例紹介

航空機産業などでよく利用されるASTM、AMSだけでなく、世界にはたくさんの規格があります。アメリカだけでもANSI、AIA/NAS、AISI、ASME、SAE/AMS、IEEE、MIL、FEDといった規格があり、これらの規格についての相談や各種試験方法などの問い合わせを受けています。

### 【中小企業の皆さんへ】.....

体力、気力ともに充実している企業でない航空機産業に参入するのは難しいのが現状です。規格を国際標準に合わせるということは、単位も一部でミリやグラムからインチ、ポンドに変わる場合もありますし、計測機器などの準備や慣れが必要となります。また、経営のしくみ、品質管理のやり方など、あらゆる面で今までのやり方ではなく、グローバルスタンダードに合わせていかないとはいけません。しかし、これらのハードルは決してデメリットばかりではないのです。これらに取り組むことで、技術力、品質保証の力などは上がっていきますし、社員のモラルやモチベーションなども向上していくでしょう。目先の利益の追求ではなく、企業の成長のチャンスとして捉えることで、大きく飛躍するきっかけとなるかもしれません。

